



学校法人 赤門宏志学院

仙 台 赤 門 短 期 大 学 開 学
赤 門 鍼 灸 柔 整 専 門 学 校 創 立 70 周 年
赤 門 鍼 灸 柔 整 専 門 学 校 同 窓 会 設 立 60 周 年

記念式典・祝賀会

赤
門

日時：2018 年 10 月 6 日(土)

場所：ホテルメトロポリタン仙台 4階(千代)

式 次 第

記念式

挨拶	学校法人赤門宏志学院 仙台赤門短期大学	理事長 学長	坂本 正憲 佐竹 正延
永年勤続者表彰 (代表)	赤門鍼灸柔整専門学校	専任教員	安齋 昌弘
工事協力者感謝状 (代表)	東野建設工業株式会社	代表取締役社長	東野 久晃 殿
来賓祝辞	(公社)東洋療法学校協会 (公社)宮城県看護協会 宮城県議会議員	会 長 会 長	坂本 歩 殿 佃 祥子 殿 相沢 光哉 殿

祝賀会

挨拶	赤門鍼灸柔整専門学校同窓会	会 長	佐々木 賢
来賓祝辞	参議院議員		和田 政宗 殿
鏡 開 き			
乾 杯	(公社)全国柔道整復学校協会	会 長	谷口 和彦 殿
アトラクション	Joy-Clefによる四重奏「叙情曲」演奏 70周年式典動画「伝統の敬愛とイノベーション」上映		
閉 会 の 辞	学校法人赤門宏志学院	法人本部総務課長	坂本 浩樹

ご挨拶

学校法人 赤門宏志学院 理事長
赤門鍼灸柔整専門学校 校長
坂本 正憲



当校は、昭和22年（1947年）4月に宮城県知事より設置認可されてから、創立70周年を迎えることができました。

創立以来、これまでご指導・ご鞭撻をいただきました各界の皆様、そして同窓会の皆様には衷心より感謝申し上げます。また、同窓会が設立60周年を迎えられましたこと慶賀に存じております。

さらに、当法人は創立70周年に合わせて仙台赤門短期大学看護学科を開学することができました。3年制看護短期大学で、1学年定員が80名の全国でも規模の小さな大学・短大と思われますが、リベラルアーツ教育を重視し、高齢化社会に対応できる専門的で教養ある看護師の育成を目指します。

私は高校生の頃、自分の生涯の職務は何だろうかと漠然と考えたことがありました。

当時は高度経済成長時代に入り、科学技術が称賛され、製造、金融、通商など企業等に人気が集まり、学校教育への人気は今いちで、学校教育関係に従事はいないだろうと考えていたものでした。

人生は、人の出会いやその学びによって大きく左右されることがあり、幾つかの出会いと経験を経てから、学校教育としては傍系とされる東洋医学養成教育とほかに教習所の運営に従事することがあり、半生を回顧すると、こんなに長く従事するとは思ってもよらなかったものです。

70年間にわたる当校の様々な出来事、そして私が専門学校に従事した40数年にわたる出来事は、日本社会の変貌に次ぐ変貌を携えて回顧しながら解説すれば十分な歴史に事欠きはないでしょうし、また同窓生の2世、3世が入学してくることを考えれば伝統を感じるものです。ところが、私が校務に40数年間携わった体験では、瞬間の一場面として昨日の出来事のように思われ、「歳月は人を待たず」とよまれるように時間はどんどん過ぎ去って、いつのまにか40数年間が到来した感じを受けます。専門学校創立70周年そして40数年間の学校運営の星霜は、同時代史としてかくも短いもの

かと感慨をもつものです。

先代の理事長は、人がまだ手掛けていない事業を一早く手掛け、そのうち幾つかは現在も継承されてきています。昭和35年頃まで設立された全国の同種の学校では、将来、学校教育の主流である大学・短大の設立の夢が語られ、先代の理事長もその夢を語ったときもありましたが、本人が藍綬褒章を受章してからは人生に満足したようで、その活力が低下し、設立の夢は泡として消えていきました。

教育活動は私の生涯にわたる仕事になっていたもので、学校教育の主流の高等教育機関の設立を実現したく、構想・研究を重ね、その意思を心に留め、時期を待ち、平成25年（2013年）3月に財団法人が学校法人に切り替ってから、設立に向けて本格的に活動を始めました。大きな事業を行うときは、人の要素が第一と考えており、一緒に尽力していただける人の参加が必要で、有為な人々の参加・協力と認可に向けてのたゆまぬ努力により設立にこぎつけました。

専門学校の設置、学校移転、課程等の認可申請は何度も経験してきましたが、文部科学省の高等教育機関である短期大学の設置認可申請は、それと比べられないほど、難しい手続きと厳しい審査がありました。また、校地造成のため青葉山緑地保存地域の解除をはじめ、樹木の伐採、多量の残土の処理、開発行為の許可、上下水道の敷設など仙台市当局とは難しい折衝がありました。今後はこの経験と学校運営の実績を基盤におけば、少子高齢化と地域社会の変動を十分に考慮しなければなりません、さらに発展の可能性の見込みは、広がるのではないかと考えられます。

創立70周年を記念するにあたり、皆様のご協力・ご支援に対して感謝を申し上げ、また当法人の今後の発展につきまして、一層のご指導・ご鞭撻そしてご厚情を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

高等教育機関としての発展を目指して

仙台赤門短期大学 学長

佐竹 正延



私事ですが、私が前任の大学に勤務していた時分に、3年間ほど、当法人が運営する専門学校で、生理学の非常勤講師を務めた経緯があり、坂本理事長とは面識がありました。それが3年前の秋、理事長より突然、久しぶりに電話をいただき、会いたいとのこと。今は大学を退職した自分に、何のご用件であろうか、いぶかりながら赴いたところが、看護学の短期大学を設立したので手伝って欲しいとお話でありました。私が当短大に関与することになった、直接の契機であります。

年が改まり、平成28年の4月に、短大設置準備室が法人内に組織され、私を含め数名が雇用されて、設置に向けて作業を開始しました。半年後の10月には、文部科学省の大学設置・学校法人審議会あてに設置認可申請書を提出。審査意見が伝達されるたびに、補正申請書・再補正申請書の作成。さらには文科省内でのヒアリング、現地での実地調査。幾重・幾段階の試練を経て、文科大臣から設置が認可されたのは、1年後の平成29年8月29日のことでありました。

直後の9月30日には、初めての入試を実施。平成30年4月4日に、第1期生を迎えて入学式を挙行了のですから、今から振り返れば、準備室時代の2年間は激動、もしくは怒涛の日々でありまして、よくもまあ、開学までこぎつけることができたものと、感無量の思いを抱くのは独り、私には限らないと想像します。設立に関係し、御協力を頂いた諸兄諸姉には、深甚なる感謝の念を表明するものです。

短大は、緑に包まれ静寂な、青葉山・文教キャンパスに位置しています。そして、真新しく広々とした校舎内には、最新の教育設備環境が整備され、熱意にあふれ実力ある教職員の方々が、学生の教育に当たっております。当短大の卒業生には是非とも、臨床の現場で、実践的中核的な人材として活躍し、地域社会・地方の医療に

貢献して欲しいと願っています。

さて、このようにして始まった短大ではありませんが、開始より維持運営が、むしろ難しいし、さらに発展させることは容易ではないと、心配しているのが私の本心です。近年、我が国を代表する歴史的な名門大企業の幾つかが、相次いで社会の信用を失い、破綻し凋落していくニュースを見聞するにつけ、組織の維持発展にとって必須・肝要な要素は何か？当短大が発足した今こそ、組織に集う人々の思いと組織であることの本質を、振り返ってみるべきであると、内省しております。一つは、短大看護学科の内容、教育へのヴィジョンであり、もう一つは、組織としての枠組み、コンプライアンスの担保でありましょう。勿論、両者とも表記し掲揚し実行しているものではありませんが、準備から開学まで、時間がなく迅速に行う余りのゆえ、現状に不備不足の点があるかもしれません。思いを致したうえで、改善実行に努める所存ですが、その折には再び諸兄諸姉のご協力を切に、お願いする次第であります。

平成30年4月 入学式における学長式辞より

「看護の基本は、人々の健康を保持・回復するために、寄り添い援助することです。看護師は、健康で幸福でありたいという人々の普遍的なニーズに応える、重要な役割を担っているのです。本学の教育において、看護師の「知」とは、看護に係る確かな知識と技術を有し、独立した専門職業人であることです。看護師の「情」とは、病める人の心情を理解する感受性と表現力です。看護師の「意」とは、宮城県・東北の地域医療に貢献したいとの志です。本学は、人間として総合力を持った看護師の育成に、尽力いたします」

お祝いのご挨拶

赤門鍼灸柔整専門学校同窓会 会長
佐々木 賢



本日は我が学び舎であります赤門鍼灸柔整専門学校の創立70周年そして仙台赤門短期大学看護科の開学、併せて私共の同窓会であります赤門同窓会設立60周年記念のお祝いに大勢のご来賓ならびに関係各位、そして同窓会員、職員が一堂に集いお祝いできますことは、同窓会長として誠に嬉しく大慶に存じます。

まだまだ戦後復興途中の昭和22年4月「東洋医学を社会に普及し、健康福祉に貢献する」と云う宏志を胸中に秘められた先代の國分壮理事長は生業をしながら、ここ仙台の地で建学への歩を始めました。爾来、人の一生の七十年もそうであるように、紆余曲折あり、順風満帆もありの歩みの中で、確実な足跡を残してこられた仙台赤門建学の祖である國分壮先生に改めて敬意と感謝を申し述べます。

至って、時代の流れの業界や国の制度が変遷する中、さまざまな課題や変革を余儀なくされながらも今般、未来への大きな歩みとなる看護短期大学の開学の英断実行をされた理事長であり校長でもある坂本正憲先生の偉業にもまた深甚なる敬意を併せて申し上げます。

古来より多くの賢人や指導者は「学び多き者が国を創り、国の計は人の樹うるに如くは莫し」と人材を育てる教育の大切さを語っております。

私共の赤門はご周知のとおり、全国の専門学校と業界での教育・技術が評価され、第一の歴史と伝統を積み上げて参りました。

その歴史と伝統の連続で今や同窓会も60年の還暦の年を数えました。初代会長の橋本敬三先生から始まり二代佐藤茂先生、三代小松忠司先生、四代上泉昌隆先生、そして五代は不肖、佐々木と志を引き継ぐ中、役員、支部長各位のお蔭で、

今や全国45支部9,000人の同窓会員を擁するまでになり、全国各地で仙台赤門の学び舎で学んだ知識・技術を基に鍼灸・マッサージ・柔整専門職として医療・介護分野においても第一線で活躍されております。

これほどの人的財産・人的資源を有する業界での専門学校は他に類を見ないと自負しております。「東洋医学を社会に普及し、健康福祉に貢献する」の宏志がちょうど一麦が豊かな土に落ち万倍の穂を実らす如く、業界・社会に良き人材を今後も輩出して頂きますよう私達同窓会員も惜しめない協力をして行きたいと思っております。

今後も赤門鍼灸柔整専門学校、そして新設の仙台赤門短期大学が輝かしいご発展をされますよう大エールを送ると共に、ご参会の皆様のご健康とご多幸を祈念し祝辞とさせていただきます。

写真で振り返る70年の歩み

歴代キャンパス



1949年(昭和24年) 大町校舎前景



1957年(昭和32年) 学校移転した当時の川内校舎



1967年(昭和42年) 川内校舎 鉄筋5階建校舎竣工



1983年(昭和58年) 青葉山校舎



2007年(平成19年)
国分町校舎



2018年(平成30年) 仙台赤門短期大学校舎

歴代校長

	就任した年	名 前
一代目	1947 年 (昭和 22 年)	小 関 明
二代目	1949 年 (昭和 24 年)	小 塚 喜 四 郎
三代目	1953 年 (昭和 28 年)	國 分 壮 ※理事長と兼務
四代目	1957 年 (昭和 32 年)	高 橋 喜 三 郎
五代目	1982 年 (昭和 57 年)	佐 藤 三 郎
六代目	1986 年 (昭和 61 年)	坂 本 正 憲

1947-1997

I. 「赤門」発足からの50年

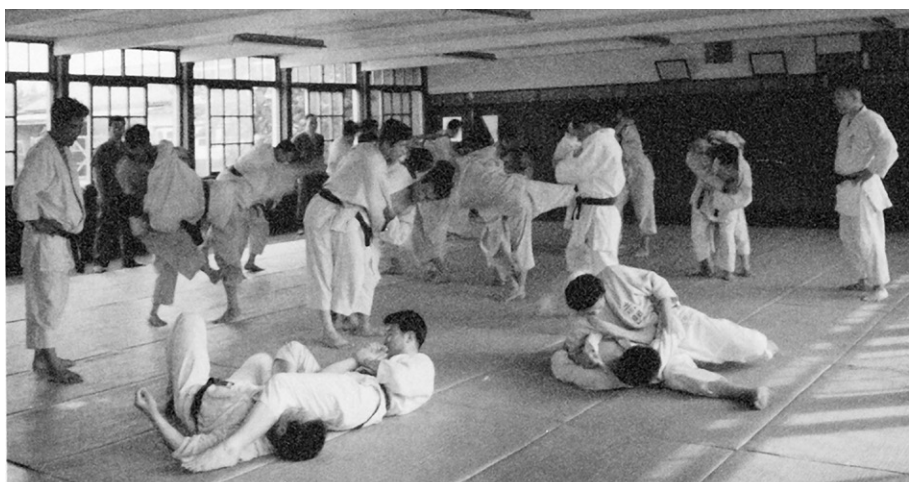
年 代	校 歴
1947年（昭和22年4月）	宮城県知事から「東北高等鍼灸学校」（仙台市青葉区大町一丁目）の設立の許可を受ける 大町の旧校舎は、戦後まもなく建てられた和洋折衷の風雅な建物であった。門柱の横に自家用車が見られる。当時、自家用車の所有者はごくわずかで、業界では本校だけであった。この自家用車が現在の赤門自動車学校を設立させたのである（昭和26年）
1948年（昭和23年12月）	厚生大臣から全国第一号として「東北高等鍼灸整按学校」（当時の法令の修業年限規定により、按摩科2年制、鍼灸科5年制、柔道整復科4年制）の認定を受ける
1949年（昭和24年4月）	厚生大臣認定の養成学校として第1期生の入学生を受け入れる 文部大臣から公益法人として「財団法人東北高等鍼灸整按学校」の設立が許可される
1951年（昭和26年9月）	財団法人名を「赤門学志院」に改称。校名を「東北高等鍼灸整復学校」に改称
1953年（昭和28年4月）	厚生大臣から修業年限の法令が改正され、大学入学資格者を入学資格（高卒者）とする専門課程（鍼灸科2年6ヶ月制、柔道整復科2年制）の新設が認定される
1957年（昭和32年4月）	川内校舎新築落成。大町旧校舎から移転
1967年（昭和42年8月）	川内に新校舎落成
1968年（昭和43年4月）	厚生大臣から柔道整復科第二部（2年制）の新設が認定される 校名を「仙台赤門鍼灸柔道整復学校」に改称
1976年（昭和51年5月）	厚生大臣から鍼灸科第二部（3年制）の新設を認定される
1979年（昭和54年3月）	宮城県から専修学校として認可を受ける 校名を「赤門鍼灸柔整専門学校」に改称
1983年（昭和58年8月） （10月）	現在の青葉山現校舎落成、川内旧校舎から移転 赤門赤十字奉仕団、厚生大臣より表彰
1987年（昭和62年10月）	学校創立40周年記念式を行う
1989年（平成元年7月）	赤門赤十字奉仕団、厚生大臣より表彰
1990年（平成2年4月）	法令改正にともない、全課程3年制と定められ、厚生大臣から課程学科の再認定を受ける
1997年（平成9年4月）	学校創立50周年を迎え、記念式が開催される



1953年(昭和28年) 卒業生と松島パークホテル庭園にて



1955年(昭和30年) 大町校舎にて卒業記念



1962年(昭和37年)
大町校舎での柔道練習風景



1969年(昭和44年) 川内校舎にて高橋校長(81歳)、鈴木教頭(満77歳) 賀寿祝賀会記念



1975年(昭和50年) 川内校舎の全景
 左側：仙台赤門ユースホステル (昭和33年12月～平成8年1月末まで)
 手前：仙台赤門自動車学校 (昭和29年1月～)
 右奥：赤門鍼灸柔整専門学校川内校舎 (昭和42年～昭和58年)



1983年(昭和58年)
 赤門赤十字奉仕団による町内清掃ボランティア



1984年(昭和59年) 青葉山新校舎落成式での佐藤三郎校長の式辞



1987年(昭和62年) 40周年式典での一コマ
 國分壮理事長・坂本正憲校長・國分壮一教頭



1987年(昭和62年) 40周年式典での集合写真 於：江陽グランドホテル



1989年（平成1年）理事4名（左から）坂本正憲校長、清水孝一弘前大名誉教授、國分壮理事長、教習所の大山末吉校長



1990年（平成2年）飛鳥井芳郎先生による鍼灸指圧科の授業



1990年（平成2年）熊田典子先生による指圧マッサージ科の授業



1989年（平成1年10月22日）学園祭記念講演に小野田寛郎先生を招く
フィリピン・ルバング島30年の体験を語る



1991年（平成3年）赤門祭の講演で来校された柔道金メダリスト斎藤仁様



1993年（平成5年）修学旅行で訪れた韓国ソウル・国立中央博物館にて



1996年（平成8年）謝恩会にて談笑する國分壮理事長と熊田典子先生



1997年（平成9年）50周年式典での集合写真 於：ホテル仙台サンプラザ

1998-2007

Ⅱ. 60周年まで

年 代	校 歴
1999年（平成11年11月）	國分壮（創立者）が藍綬褒賞（教育事業発展の功績）を授与される
2003年（平成15年7月）	献血推進活動の功績により厚生労働大臣から表彰される
2005年（平成17年4月）	屋外運動施設が完成
2007年（平成19年3月）	国分町に新校舎落成（東洋療法教員専攻科と臨床実習施設）
2007年（平成19年4月）	厚生労働大臣から東洋療法教育専攻科の新設が認定される
2007年（平成19年10月）	学校創立 60 周年記念式を行う



1999年（平成11年）
國分壮理事長が教育事業発展の功績で
藍綬褒章を授与される



1998年（平成10年）
座敷実習室でのあん摩マッサージ指圧の授業
（この座敷実習室は平成 19 年に現在の図書室となった）



2002年（平成14年）赤門祭



2001年（平成13年）
亀井啓先生による柔道整復科の授業風景



2006年（平成18年）阿部茂先生による柔道整復科の柔道の授業



2006年（平成18年）
太田作郎先生による柔道整復科の固定法実技授業



2007年（平成19年）宗形明子先生による鍼灸指圧科の授業風景



2007年（平成19年10月）
60周年式典
於：仙台国際ホテル



2007年（平成19年）
国分町校舎に実習施設でもある
東洋医学臨床治療所を開設



2007年（平成19年）
山田秀一郎先生と
吉本豊先生による
鍼灸指圧科の授業

2008-2018

Ⅲ. 70周年まで

年 代	校 歴
2009年（平成21年3月）	卒業式・入学式が国分町校舎にて行われるようになる
2010年（平成22年4月）	本校創設者の國分壮先生、4月26日に95歳の天寿を全うし永眠
2011年（平成23年4月）	鍼灸師等の卒後臨床研修制度をスタート
2013年（平成25年3月）	財団法人赤門学志院の解散 学校法人赤門宏志学院の設立が認可される
2014年（平成26年1月） （7月） （10月）	東洋医学臨床治療所がミヤギテレビ「OH! バンデス」の取材を受ける 献血推進活動の功績により厚生労働大臣から表彰される 東洋療法学校協会第36回学術大会発表参加
2015年（平成27年2月） （4月） （8月） （11月）	文部科学省「職業実践専門課程」の認定を全学科で受ける 東北大学から短大設立用地の譲渡・購入 全国柔道整復学校協会主催「全国柔道大会第3部」優勝 東洋療法学校協会第37回学術大会発表参加
2016年（平成28年6月）	スクールバスが新しくなる
2017年（平成29年4月） （6月） （8月） （10月） （10月）	学校創立70周年を迎える 仙台赤門短期大学 テレビCM 5月26日～6月28日に放映 仙台赤門短期大学文科省認可の記者会見の様子はNHKなどが放映 日本赤十字社から金色有功章を授与 東洋療法学校協会第39回学術大会発表参加
2018年（平成30年4月）	仙台赤門短期大学看護学科 開学 「東洋療法教育専攻科」から「臨床教育専攻科」へ学科名称変更 全日本鍼灸学会東北支部第35回学術集会に学生参加



2008年（平成20年）押木由之先生による柔道整復科の関係法規授業



2010年（平成22年）柔道整復科の授業風景



2011年(平成23年) 初めての国分町校舎附属治療所にて赤門祭を開催
漆山貴司先生、吉本豊先生、川嶋睦子先生



2013年(平成25年)
漆山先生による附属治療所での鍼灸指圧科の臨床実習



2014年(平成26年) 国分町校舎にて
ミヤギテレビ「OH!バンデス」から
経穴人形について浦山先生が取材を受ける。



2017年(平成29年) 赤門祭 指圧クラブによる1日鍼灸院「いやし堂」



2015年(平成27年)
恒例の日本柔道整復師会の説明会に萩原副会長、当校
講師の豊嶋総務部長(現政策部長)、宮城県柔道整
復師会当校卒業生でもある櫻田会長が来校



2018年(平成30年)
仙台国際ハーフマラソンの宮城県鍼灸師会救護ボランティアとして沢山の
教員・卒業生・在校生が参加

2018.4 開学。

仙台赤門短期大学

施設紹介

5階建ての校舎には、講義室の他に学内実習(基礎・母性／小児・在宅・成人)の設備が整った実習室、自己学習などに使う演習室、学習用ラウンジ、教具研究室、図書館の他に、憩いのスペースとして、学生ホールがあります。また、Wi-Fi環境も整っています。

看護学科

3年課程 入学定員80名／男・女

◆取得できる資格

- 看護師国家試験受験資格
- 保健師・助産師・養護教諭養成校受験資格

◆取得できる学位

- 短期大学士(看護学)

講義室



講義室は、階段教室を含む5室を設置しています。授業はもちろんのこと、視聴覚教室としても活用しています。

ラウンジ



おしゃれなカフェやレストランを思わせるラウンジで、ランチはもちろんのこと、学生同士や教員とのコミュニケーションの場として活用しています。

教室



パウダールーム



ONとOFFを上手に使い分け、広くて清潔な空間で身だしなみを整えることができます。

図書室



シックでモダンな作りの図書室です。落ち着いた雰囲気の中で、勉強にも集中できます。

5つの特色

知識と技術だけではなく、豊かな人間性を磨き、信頼される看護師として地域社会に貢献します。

少人数教育

きめ細やかな教育で理解度が深まります

1

本学は1学年80名の単科短期大学で、その規模を活かしたきめ細やかな少人数教育が特徴です。講義では、学生自らが学習に参加できるよう、グループワークでプレゼンテーションする機会を設けています。また実習でのカンファレンスでは、学生が安心して発言できる環境をつくり、活発な情報交換ができるようにしています。

地域との関わり

地域に根ざした医療を体験します

2

本学は、「地域の医療関連施設に勤務し、地域社会に貢献したい」という志を持つ看護師を育成すること」を建学の目的のひとつとしています。そのため、1～3年次に行う臨地実習では、仙台市内にある総合病院や介護福祉施設等に限らず、宮城県北や県南にある基幹病院での実習も行います。地域の基幹病院は、頻度が高く重要な疾患群に対応していることから、本学の学生にとっては多くを学べる学習環境といえます。

未来志向

将来、現場に必要な対話力が身につきます

3

対話力は患者と自分の心を開いて人間関係を結び、的確な看護実践するために必要な能力です。本学では人間学やカウンセリング理論と実際の看護を学び、授業や実習では、発言の機会を作り、グループディスカッションを多く行い、対話力を磨きます。将来、人間関係で悩む看護師が多い中、自己との対話力、他者との対話力を育て(主体性を育て)る本学の学生は自分を見失うことなく、人間として看護師としての自己を実現することができます。

恵まれた環境

自然豊かなキャンパスと充実した学びの環境

4

本学は、仙台市のシンボル・仙台城址がある青葉山地区にキャンパスを構えています。緑豊かなキャンパスには、講義室の他に4つの実習室や先端技術に触れるスキル・ラボ、学生がフリーでアクセスできるインターネット環境、そして体育館や散歩道等があり、充実した学びの環境が整っています。

経験豊富な教員陣

臨床経験・教育研究経験が豊富な教員陣が指導

5

本学の教員は、臨床における看護経験や看護教育経験が豊富な専任教員をはじめ、東北大学に在籍する非常勤講師、赤門鍼灸柔整専門学校講師など専門性の高い教員陣が揃います。授業も、最先端の医療・看護から心とからだを整える東洋医学まで、幅広く充実した内容を学べます。

キャンパスの様子



授業風景



実習風景



入学式後の懇親会



入学式後の懇親会



平成30年度 第一期入学生

現在までの変遷（卒業者数）

東北高等鍼灸学校

東北高等鍼灸整按学校

昭和 23 年 3 月現在の在籍数／本 科 50 速成科 35 研究科 15

「上記のうち、昭和 23 年 11 月に特例（昭 23・7・16 法 176 号）による都道府県知事の資格試験を受験した者、また厚生大臣に認定された当校に昭和 24 年 4 月に再入学した者との 2 グループがあった」

（卒業者数：人）

大町校舎時代

川内校舎時代

青葉山校舎時代

卒業年	学科	按摩科 (中卒・修業年限 2 年課程)	鍼灸科高等部 (高卒・修業年限 5 年あはき課程)	鍼灸指圧科専門部 (高卒・修業年限 3 年あはき課程)	鍼灸科専門部 (高卒・修業年限 2 年半はき課程)	鍼灸科夜間部 (高卒・修業年限 3 年制のはき課程)
昭和 28 年 (1953 年)		5				
29 年 (1954 年)		3	8			
30 年 (1955 年)		4	4		12	
31 年 (1956 年)		10	3		10	
32 年 (1957 年)		18	1		21	
33 年 (1958 年)		14	2		16	
34 年 (1959 年)		58 (特例措置)	2		(廃止)	
35 年 (1960 年)		33	3	24 (定員 30 名)		
36 年 (1961 年)		35	1	19		
37 年 (1962 年)		24	(廃止)	37		
38 年 (1963 年)		36		31		
39 年 (1964 年)		25		29		
40 年 (1965 年)		30		31		
41 年 (1966 年)		32		28		
42 年 (1967 年)		28		33		
43 年 (1968 年)		35		40		
44 年 (1969 年)		34		38		
45 年 (1970 年)		40		38		
46 年 (1971 年)		34		32		
47 年 (1972 年)		32		44		
48 年 (1973 年)		39		40		
49 年 (1974 年)		40		38		
50 年 (1975 年)		39		49		
51 年 (1976 年)		34		47		
52 年 (1977 年)		35	学科名変更 指圧マッサージ科 (高卒・就業年限 2 年課程)	46		
53 年 (1978 年)		39		44	学科名変更 鍼灸指圧科	
54 年 (1979 年)		34		41		27 (定員 25 名)
55 年 (1980 年)		33		37		30
56 年 (1981 年)		34		34	学科名変更 鍼灸科第二部	31
57 年 (1982 年)		33		33		30
58 年 (1983 年)		31		36		29
59 年 (1984 年)		32		32		25
60 年 (1985 年)		31		32		25
61 年 (1986 年)		29		32		28
62 年 (1987 年)		31		34		25
63 年 (1988 年)		33		28		28
平成 01 年 (1989 年)		31		35		27
02 年 (1990 年)		32		31		28
03 年 (1991 年)		31	鍼灸指圧科 (高卒・修業年限 3 年課程)	33	鍼灸科第二部 (高卒・修業年限 3 年はき課程)	28
04 年 (1992 年)		(廃止)		32		27
05 年 (1993 年)	鍼灸指圧科へ 20 名移動		「平成元年 9 月に学制と厚生大臣の資格試験に関する法令改正、指圧マッサージ科定員 30 名を廃止することによって、新たに定員 50 名の同学科を設置」	51 (定員 50 名)	「平成元年 9 月に学制と厚生大臣の資格試験に関する法令改正、平成 2 年 4 月第 1 回生を受け入れる」	25
06 年 (1994 年)				50		25
07 年 (1995 年)				50		25
08 年 (1996 年)				50		24
09 年 (1997 年)				49		26
10 年 (1998 年)				53		23
11 年 (1999 年)				48		28
12 年 (2000 年)				54		23
13 年 (2001 年)				49		27
14 年 (2002 年)				44		28
15 年 (2003 年)				49		23
16 年 (2004 年)				53		23
17 年 (2005 年)				49		42 (定員 54 名)
18 年 (2006 年)				51		46
19 年 (2007 年)				45		41
20 年 (2008 年)				52		58
21 年 (2009 年)				47		30
22 年 (2010 年)				46		20
23 年 (2011 年)				44		8 (定員 20 名)
24 年 (2012 年)				41		11
25 年 (2013 年)				41		9
26 年 (2014 年)				43		9
27 年 (2015 年)				47		13
28 年 (2016 年)				44		6
29 年 (2017 年)				41		9
合計		834	24	2,349	59	990

鍼灸科第一部 (高卒・修業年限 3 年はき課程)	柔道整復科高等部 (中卒・修業年限 4 年課程)	柔道整復科専門部 (高卒・修業年限 2 年課程)	柔道整復科夜間部 (高卒・修業年限 2 年課程)	東洋療法教育専攻科 (修業年限 2 年教員養成課程)	学科 卒業年
	34				昭和28年 (1953年)
	30				29年 (1954年)
	17	27			30年 (1955年)
	10	19			31年 (1956年)
	7	29			32年 (1957年)
	7	24			33年 (1958年)
	3	47			34年 (1959年)
	8	32			35年 (1960年)
	5	34			36年 (1961年)
	2	34			37年 (1962年)
	6	30			38年 (1963年)
	(募集停止)	30			39年 (1964年)
	・	36			40年 (1965年)
	・	29			41年 (1966年)
	・	34			42年 (1967年)
	(廃止)	29			43年 (1968年)
		36			44年 (1969年)
		59 (定員60名)	10 (定員30名)		45年 (1970年)
		47	23		46年 (1971年)
		39	24		47年 (1972年)
		31	28		48年 (1973年)
		39	41		49年 (1974年)
		34	43		50年 (1975年)
		34	41		51年 (1976年)
		44	38		52年 (1977年)
		50	37		53年 (1978年)
		74	27		54年 (1979年)
		65	34		55年 (1980年)
		71	35		56年 (1981年)
		65	35		57年 (1982年)
		67	30		58年 (1983年)
		65	34		59年 (1984年)
		65	32		60年 (1985年)
		65	33		61年 (1986年)
		63	31		62年 (1987年)
		64	33		63年 (1988年)
		67	32		平成01年 (1989年)
		61	33		02年 (1990年)
		66	33		03年 (1991年)
		—	—		04年 (1992年)
		61	31		05年 (1993年)
		62	33		06年 (1994年)
		55	32		07年 (1995年)
		64	31		08年 (1996年)
		63	33		09年 (1997年)
		61	31		10年 (1998年)
		52	30		11年 (1999年)
		63	35		12年 (2000年)
		63	35		13年 (2001年)
		58	28		14年 (2002年)
		62	33		15年 (2003年)
		55	31		16年 (2004年)
		53	46 (定員60名)		17年 (2005年)
		53	36		18年 (2006年)
		41	38		19年 (2007年)
		48	58	4	20年 (2008年)
		40	30 (定員30名)	7	21年 (2009年)
		39	20	10	22年 (2010年)
14 (定員20名)		24	8	2	23年 (2011年)
10		24	11	6	24年 (2012年)
8		25	9	4	25年 (2013年)
8		18	9	2	26年 (2014年)
13		18	13	4	27年 (2015年)
10		15	6	1	28年 (2016年)
6		22	9	5	29年 (2017年)
69	129	2,844	1,383	45	

「昭和 28 年 1 月、高卒養成課程の法令が施行、昭和 28 年 4 月第 1 回生を受け入れる」

学科名変更
柔道整復科

学科名変更
柔道整復科夜間部第二部

柔道整復科
(高卒・修業年限 3 年課程)
「平成元年 9 月に学制と厚生大臣の資格試験に関する法令改正、平成 2 年 4 月第 1 回生を受け入れる」

柔道整復科第二部
(高卒・修業年限 3 年課程)
「平成元年 9 月に学制と厚生大臣の資格試験に関する法令改正、平成 2 年 4 月第 1 回生を受け入れる」

学科名変更 (2018 年)
臨床教育専攻科

東北高等鍼灸整復学校

仙台赤門鍼灸柔道整復学校

赤門鍼灸柔道整復専門学校 (専修学校は法令による校名変更)

表彰者名簿

■永年勤務者

氏 名	職 名	採用年月日	勤続年数
安齋 昌弘	専任教員・臨床教育専攻科学科主任	昭和 52 年 4 月	41 年
國分 壮一	専任教員	昭和 55 年 4 月	38 年
山田秀一郎	専任教員	昭和 56 年 4 月	37 年
太田 作郎	専任教員	昭和 57 年 4 月	36 年
糟谷 俊彦	専任教員	昭和 57 年 4 月	36 年
亀井 啓	専任教員	昭和 60 年 4 月	33 年
佐々木 賢	専任教員	昭和 63 年 4 月	30 年
吉本 豊	専任教員	平成 3 年 4 月	27 年
長岡 靖彦	専任教員・総務主任	平成 4 年 4 月	26 年
高橋 武彦	専任教員・教務主任	平成 5 年 4 月	25 年
阿部 康一	講師（前石巻専修大学経営学部 教授）	昭和 52 年 4 月	41 年
伊藤 恒敏	講師（東北大学 名誉教授）	昭和 52 年 4 月	39 年
阿部 茂	講師	昭和 57 年 4 月	36 年
金田一孝二	講師（前東北大学大学院歯学研究科 准教授）	平成元年 4 月	29 年
萱場 公雄	講師	平成元年 4 月	29 年
笹野 泰之	講師（東北大学大学院歯学研究科 教授）	平成 2 年 4 月	28 年
和泉 博之	講師（前北海道医療大学 教授）	平成 2 年 4 月	28 年
佐藤 捷	講師（前帝京大学 医療技術学部 教授）	平成 3 年 4 月	27 年
佐々木和義	前講師（佐々木整形外科 院長）	平成 3 年 4 月	27 年
浦山 きか	講師（前東北大学高等教育開発推進センター）	平成 6 年 4 月	24 年
大沼 英子	講師（歯科医）	平成 8 年 4 月	22 年
小坂 陽一	講師（東北大学病院 医局医師）	平成 10 年 4 月	20 年
柏倉 利一	講師	昭和 55 年 4 月	38 年
宮田 正則	講師	昭和 60 年 4 月	33 年
岡本 栄子	講師	平成 3 年 4 月	27 年
本木 利之	講師	平成 10 年 4 月	20 年

■工事協力者

東野建設工業株式会社 代表取締役社長 東野 久晃
有限会社倭設計 代表取締役 吉岡 高次



編集後記

ここに『学校法人 赤門宏志学院 仙台赤門短期大学開学・赤門鍼灸柔整専門学校 70 周年・赤門鍼灸柔整専門学校同窓会設立 60 周年 記念式典・祝賀会』の記念冊子の出版に係わったことを大変嬉しく思っております。

まず冊子を作成するにあたり、赤門に係わる教職員や卒業生、すべての人が懐かしめる内容にしたいという強い考えから構想を始めました。実際に作業に取り掛かると写真データは直近のものしか残っておらず、学校に残っていた数十冊の卒業アルバムを遡り、スキャナーでせっせとパソコンに取り込みましたが限度があり、創立当初に残っている資料や写真なども保存場所が分からない状態でした。資料提供、原稿依頼に快く応じ、アドバイスをいただいた理事長や学長などの皆様方に心よりお礼申し上げます。

先述の提供写真を含めると 500 枚以上のデジタルデータとして残すことが出来ました。これらの資料は、すべてとりまとめ詳細を記して学校に保存します。願わくは、これから 80 周年、90 周年そして 100 周年記念に引き継いでいただけるようにと思っています。

この度の創立 70 周年記念実行委員会の主要メンバーとして企画運営から記念冊子に至るまで初めての事ばかりで、目まぐるしくとげとげしい気持ちになる日々もありましたが、国分町校舎の教職員の方々が広い心で協力いただいたことで無事完成しました。皆さんの協力無くしては完成しなかったと思います。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、編集作業の時間的制約もあり、詳細な部分で正確な記録となっているのか不安な面があります。この点につきましては、記念冊子を手にとられた方々に、ご理解、ご寛容頂きたくお願い申し上げます。

(編集担当) 坂本浩樹・松田静香

学校法人 赤門宏志学院

仙台赤門短期大学 看護学科

2018年(平成30年)創立

〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻青葉6-41
TEL.022-395-7750 FAX.022-302-5531

学校法人 赤門宏志学院 厚生労働大臣認定

赤門鍼灸柔整専門学校

1947年(昭和22年)創立

1948年(昭和23年)厚生省認定全国第1号

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻青葉33-1(本校舎)
TEL.022-222-8349 FAX.022-222-3797

〒980-0803 仙台市青葉区国分町1丁目6-7
TEL.022-217-7065 FAX.022-266-9950

